



安全データシート（SDS）

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2023/08/21
SDS整理番号 19570250

製品等のコード : 1957-0250、1957-0280

製品等の名称 : 四ほう酸ナトリウム無水（ガラスほう砂）

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途（当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。）
ガラス繊維、ほう珪酸ガラス、特殊鋼添加剤、医薬品、防虫剤、
コンクリートブロック、金属表面処理剤、離型材、プラスチック用充てん剤、
化粧品添加物、半導体用ボロン拡散剤、高温電気絶縁材、
化合物半導体単結晶製造用つぼ など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分に該当しない
自然発火性固体 : 区分に該当しない
自己発熱性化学品 : 区分に該当しない
水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性（経口） : 区分4
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A
特定標的臓器毒性（反復ばく露） : 区分1（呼吸器）

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性） : 区分に該当しない
水生環境有害性 長期（慢性） : 区分に該当しない

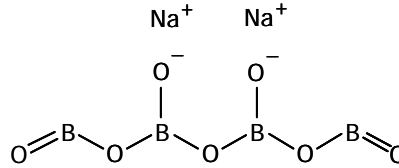
注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

飲み込むと有害（経口）
強い眼刺激
長期又は反復ばく露による呼吸器の障害

注意書き

【安全対策】
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
【応急措置】
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。



眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。
 眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉して冷暗所に保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質、混合物の区別	化学物質
化学名	四ほう酸ナトリウム無水 （別名）ガラスほう砂、四ほう酸二ナトリウム無水、ほう酸ナトリウム無水、テトラほう酸ナトリウム、四ほう酸ナトリウム （英明）Sodium tetraborate, anhydrous、Sodium tetraborate、Disodium tetraborate, anhydrous (EC名称)、Boron sodium oxide (B4Na2O7) (TSCA名称)
成分及び含有量	四ほう酸ナトリウム、99.0%以上 ほう素 (B) 含量 = $99.0 \times 10.811 \times 4 / 201.22 = 21.3\%$
化学式及び構造式	Na ₂ B ₄ O ₇ 、構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	201.22
官報公示整理番号	(1)-69
化審法	公表化学物質（化審法番号を準用）
安衛法	
CAS No.	1330-43-4
EC No.	215-540-4
REACH：高懸念物質(SVHC)	Disodium tetraborate, anhydrous (ステータス：Candidate List)
危険有害成分	四ほう酸ナトリウム

4. 応急措置

吸入した場合	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	皮膚を大量の水と石鹼で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の処置を受ける。
目に入った場合	直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。 まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。 その後も洗浄を続ける。 眼の刺激が持続する時は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状：情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	本品は不燃性である。 周辺火災に応じた消火剤を使用すること。 散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂
使ってはならない消火剤	棒状注水（本品があふれ出し、生物に対する有害性や環境汚染を引き起こすおそれがある。）
特有の危険有害性	火災によって刺激性、毒性なガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	消火活動中に煙を吸引しないようにする。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護	有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
-----------------------	-----------------------

環境に対する注意事項	： 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。 風上から作業し、粉じんなどを吸入しない。 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
回収、中和	： 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。 ： 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。 ： 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。 ： 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。 ： 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
封じ込め及び浄化の方法	・ 機材
二次災害の防止策	： 危険でなければ漏れを止める。 ： 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 ： 床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	： 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 粉じんの発生、堆積を防止する。
局所排気・全体換気	： 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項	： すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避	： 湿気、水、高温体との接触を避ける。
保管	
技術的対策	： 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。 保管場所は、採光と換気装置を設置する。
保管条件	： 直射日光や高温多湿を避けて保管する。 容器を密閉して冷暗所に保管する。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質	： 強酸化剤、強酸
容器包装材料	： ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

<参考> 室温での容器包装材料の耐薬品性（あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要）

【 ○：良好 △：やや良好(条件による) △：やや不良 ×：不良 -：データなし 】

スチレンゴム	クロロプレンゴム(ネオプレン)	ニトリルゴム	ブチルゴム
天然ゴム	シリコーンゴム	フッ素ゴム(バイトン、ダイエル)	テフロン
軟鋼	ステンレス(SUS304)	SUS316	チタン
アルミニウム	銅	ポリプロピレン	ポリエチレン
ナイロン	アセタール樹脂	アクリル樹脂	ポリカーボネート
ガラス			

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	： 設定されていない。
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）	： 設定されていない。
日本産衛学会	： TLV-TWA 2mg/m ³ （ほう素無機化合物として）
ACGIH	： TLV-STEL 6mg/m ³ （ほう素無機化合物として）
設備対策	： この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	： 呼吸器保護具（防じんマスク）を着用する。
手の保護具	： 保護手袋（ニトリル製、塩化ビニル製など）を着用する。
眼の保護具	： 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	： 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

性状	： 結晶又は結晶性粉末
色	： 白色
臭い	： なし
pH	： 約9（2%水溶液）
融点	： 741
凝固点	： データなし
沸点	： 1575
引火点	： 引火点なし
可燃性	： 不燃性
爆発範囲	： 爆発性なし
蒸気圧	： データなし
相対ガス密度（空気 = 1）	： 6.94
密度又は相対密度	： 約2.3 g/cm ³
比重	： データなし
溶解度	： 水にやや溶ける（1.6%、10℃）（2.56%、20℃）。 熱水、グリセリンに極めて溶けやすい。 希塩酸に溶けやすい。 エタノールに溶けない。
オクタノール/水分分配係数	： データなし
発火点	： 発火性なし
分解温度	： データなし
粘度	： データなし
動粘度	： データなし
粒子特性	： データなし
GHS分類	
可燃性固体	： 本品は不燃性（ICSC,1999）であることから、区分に該当しないとした。
自然発火性固体	： 本品は不燃性（ICSC,1999）であることから、区分に該当しないとした。
自己発熱性化学品	： 本品は不燃性（ICSC,1999）であることから、区分に該当しないとした。
水反応可燃性化学品	： 本品は水に可溶（溶解度2.56%、20℃）であり、水に対して安定である（水との混触で可燃性ガスの発生がない）と考えられるので、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）

	： 通常の取扱条件において安定である。
危険有害反応可能性	： 強酸化剤と混触すると反応することがある。
避けるべき条件	： 強熱、日光
混触危険物質	： 強酸化剤、強酸
危険有害な分解生成物	： 火災で加熱分解すると、有害なほう素化合物が生成する。

11. 有害性情報

急性毒性	： 経口 ラット LD50 = 1,200 mg/kg 飲み込むと有害（経口）（区分4） 経皮 分類できない。 吸入（蒸気） 分類できない。 吸入（粉じん） 分類できない。
皮膚刺激性/刺激性	： 分類できない。
眼に対する重篤な損傷/刺激性	： ECETOC TR63（1995）のヒトへの健康影響の記述「四ほう酸ナトリウム粉塵暴露による眼刺激あり」という報告から、程度は不明だが、刺激があると考えられ、区分2Aとした。 強い眼刺激（区分2A）
呼吸器感作性又は皮膚感作性	： 分類できない。
生殖細胞変異原性	： 分類できない。
発がん性	： 区分に該当しない。 ACGIH（2005）でA4（無機ほう酸化合物として）に分類されている。
生殖毒性	： 分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	： 分類できない。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	： ヒトについては、「鼻腔刺激性、眼刺激性、咽頭への刺激性、咳、息切れ」（EHC 204（1998））等の記述があることから、呼吸器が標的臓器と考えられた。 以上より、分類は区分1（呼吸器）とした。 長期又は反復ばく露による呼吸器の障害（区分1）
誤えん有害性	： 分類できない。

参考【ほう酸〔CAS No.10043-35-3〕のデータ】

急性毒性	: 経口 ラット LD50 = 2,660-5,140 mg/kg (NITE初期リスク評価書(2008)) 区分5とした(国連GHS分類)。 ただし、JIS分類では区分に該当しないである。 飲み込むと有害のおそれ(経口)(区分5)
	経皮 ラット LD50 > 2,000 mg/kg (EU-RAR (2007)) 分類できない。
	吸入(気体) 区分に該当しない。
	吸入(蒸気) 分類できない。
	吸入(粉じん) 分類できない。
皮膚刺激性/刺激性	: 4時間適用試験かは不明であるが、モルモット及びウサギを用いた、 本物質の10%水溶液を5 mL 適用した皮膚刺激性試験において、「24、 72 時間後に判定した試験で、モルモット及びウサギのいずれにも刺激性 がみられた」(NITE 初期リスク評価書(2008))、「軽度から中等度の 皮膚刺激性がみられた(PATY (4th, 2000)、PATY (6th, 2012))」 との記載から、区分2とした。 皮膚刺激(区分2)
眼に対する重篤な損傷/刺激性	: ウサギ6匹を用いた眼刺激性/腐食性試験では、本物質100 mg を24時間 適用後、洗眼した結果、結膜に水疱がみられたが、7日以内に回復した (IUCLID (2000))。また、ATSDR (2007)、ACGIH (7th, 2005) の ヒトへの健康影響の記述において、その程度、回復期間については不明 だが、刺激性があるとの報告が得られていることから、 区分2Aとした。 強い眼刺激(区分2A)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 分類できない。
生殖細胞変異原性	: 区分に該当しない。 In vivoでは、マウス骨髄細胞を用いる小核試験で陰性で あった(NITE初期リスク評価書(2008)、EU-RAR (2007)、IUCLID (2000)、ACGIH (7th, 2005)、EPA Pesticide (1994)、ECETOC- TR 63 (1995))。
発がん性	: 区分に該当しない。 ACGIH (2005) でA4 (無機ほう酸化合物として) に分類されている。
生殖毒性	: マウスを用いた連続交配試験では雄の生殖能に対する影響がみられ、 精(胎)能力低下、不妊、出生児数減少、出生児体重減少がみられて いる。ラットを用いた3世代生殖毒性試験では精巣萎縮、排卵数減少、 雌の生殖能に対する影響によると考えられる不妊がみられている (NITE初期リスク評価書(2008)、ACGIH (7th, 2005)、EHC (1998)、 DFGOT vol. 5 (1993))。発生毒性については、ラットを用いた催奇 形性試験において母動物に影響がみられない用量で胎児体重減少、 第13 肋骨短縮及び波状肋骨の増加がみられている(NITE初期リスク 評価書(2008)、EHC 204 (1998)、ACGIH (7th, 2005)、DFGOT vol. 5 (1993)、NTP DB (Access on Aug. 2013))。また、母動物 毒性のみられる用量でラットでは胎児死亡率増加、胎児体重減少、 頭蓋顔面の奇形(主として無眼球、小眼球)、中枢神経系の奇形増加 (主として脳室拡張、水頭症)(NTP DB (Access on Aug. 2013))、 ウサギでは胎児死亡率増加、心血管系の奇形増加(主としてVSD) (NITE初期リスク評価書(2008)、ACGIH (7th, 2005)、EHC (1998)、 NTP DB (2013))がみられている。 以上のことから、区分1Bとした。 生殖能または胎児への悪影響のおそれ(区分1B)
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: ヒトについて、吐き気、嘔吐、腹痛、下痢、中枢神経系の抑制、痙攣、 呼吸器刺激の記述(ACGIH (7th, 2005)、DFGOT vol. 5 (1993))が あり、また、実験動物については、わずかな気道刺激性がみられた (ECETOC TR 63 (1995))。以上より、分類は区分1(中枢神経系、 消化管)、区分3(気道刺激性)とした。 中枢神経系、消化管の障害(区分1) 呼吸器への刺激のおそれ(区分3)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 分類できない。
誤えん有害性	: 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性)	: 区分に該当しない。 魚類(マコガレイ類)の96時間LC50=74mg boron/L(四ほう酸ナ トリウム濃度換算値=1378mg/L)(EHC204、1998)から、

- 水生環境有害性 長期(慢性)： 区分に該当しないとした。
 区分に該当しない。
 難水溶性でなく（水溶解度=25000mg/L（HSDB、2004））、急性毒性が低いことから、区分に該当しないとした。
- 残留性・分解性： データなし
 生物蓄積性： データなし。低濃縮性
 土壤中の移動性： データなし
 オゾン層への有害性： 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

参考【ほう酸〔CAS No.10043-35-3〕のデータ】

- 生態毒性
 水生環境有害性 短期(急性)： 区分に該当しない。
 藻類（Pseudokirchneriella subcapitata）72時間ErC50 = 290 mg/L（環境省生態影響試験、2008）、
 甲殻類（オオミジンコ）48時間LC50= 133 mg/L
 （NITE初期リスク評価書、2008；環境省リスク評価第6巻、2008）、
 魚類（キンザケ）96時間LC50 = 447 mg/L（NITE初期リスク評価書、2008）。
- 水生環境有害性 長期(慢性)： 区分に該当しない。
 本物質は無機化合物であり水中での挙動が不明であるが、
 魚類（ニジマス）の87日間NOEC = 2.1 mg/L（NITE初期リスク評価書、2008；環境省リスク評価第6巻、2008）であることから、区分に該当しないとした。
- 残留性・分解性： データなし
 生物蓄積性： 低濃縮性。Log Pow=0.18
 土壤中の移動性： データなし
 オゾン層への有害性： 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物： 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
 都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。
 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上、処理を委託する。
 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
 （参考）固化隔離法
- 汚染容器及び包装： セメントで固化し、埋立処分する。
 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

- 国内規制（適用法令）
 陸上規制： 特段の規制なし（非危険物）
 海上規制： 特段の規制なし（非危険物）
 航空規制： 特段の規制なし（非危険物）
 国連番号： 非該当
 国連分類： 非該当
 品名： 非該当
 海洋汚染物質： 非該当
 MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類： 非該当
- 特別の安全対策： 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
 重量物を上積みしない。
 必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

- 労働安全衛生法： 名称等を表示すべき危険物及び有害物

(政令番号 第544号「ほう酸及びそのナトリウム塩」、
対象重量%は 0.3)
名称等を通知すべき危険物及び有害物
(政令番号 第544号「ほう酸及びそのナトリウム塩」、
対象重量%は 0.1)

(別表第9)

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	: 種別 「第1種指定化学物質」
	: 政令番号 「1-458」〔ただし、R5年3月31日まで「1-405」〕
	: 管理番号 「405」
	: 物質名称 「ほう素化合物」
毒物及び劇物取締法	: 非該当
消防法	: 非該当
船舶安全法	: 非該当
航空法	: 非該当
海洋汚染防止法	: 非該当
水質汚濁防止法	: 有害物質 (施行令第二条) 「ほう素及びその化合物」〔排水基準〕 10mg/L (B, 海域以外) 230mg/L (B, 海域)
土壌汚染対策法	: 第2種特定有害物質 (政令第1条第24号) 「ほう素及びその化合物」〔溶出量基準値〕 1mg/L (B) 〔含有量基準値〕 4000mg/kg (B)
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質「ほう素化合物」(中環審第9次答申の2.2.1)
輸出貿易管理令	: キャッチオール規制 (別表第1の16項) HSコード: 2840.11 第28類 無機化学品 ・輸出統計番号 (2023年4月版): 2840.11-000 「ほう酸塩及びペルオキシほう酸塩 (過ほう酸塩)」 - 四ほう酸二ナトリウム (精製ほう砂): 無水物 ・輸入統計番号 (2023年4月1日版): 2840.11-000 「ほう酸塩及びペルオキシほう酸塩 (過ほう酸塩)」 - 四ほう酸二ナトリウム (精製ほう砂): 無水物

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献	:
化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。